

能付資料の世界 — 技艺伝承の軌跡をたどる —

2018.2.20(火) → 3.24(土) ◆◆◆入場無料◆◆◆

法政大学市ヶ谷キャンパスボアソナードタワー14階博物館展示室

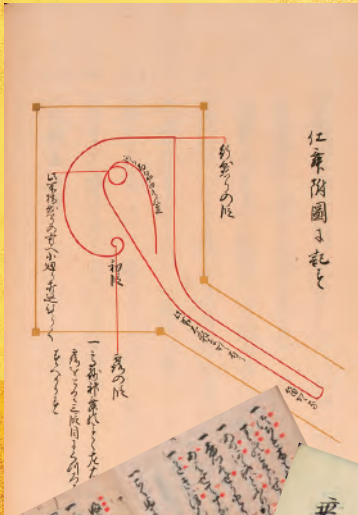
〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

JR中央線、東京メトロ有楽町線・東西線・南北線「市ヶ谷駅」または「飯田橋駅」下車、ともに徒歩 10分。

《休室日》日曜日・祝日

《開室時間》10:00 ~ 18:00 ※但し、2/28(水)は 19:00 まで開室。

《ギャラリートーク》2/28(水) 18:30 ~ 19:00



■シンポジウム

以心伝心・以身伝身 — 「ワザを伝えるワザ」とは何か? —

《日時》3/12(月) 13:00 ~ 17:00

《会場》ボアソナードタワー 26階 スカイホール

■ワークショップ 型付だけで舞えますか

《日時》①2/28(水) 19:00 ~ 19:45 ②3/12(月) 11:30 ~ 12:15

《会場》ボアソナードタワー 26階 A 会議室

主催：法政大学能楽研究所「能楽の国際・学際的研究拠点」03(3264)9815

関連
展示

国立能楽堂企画展
能の作り物

1月6日 ~ 3月25日



「能の技芸伝承」を大きなテーマに、資料展示とシンポジウム、ワークショップを計画しました。身体芸術である能は、どんな名人上手が演じて、形として残ることはありません。演じられては消えていく複雑な身体所作や、そこから生まれる言うに言われぬ魅力は、いったいどのように伝承されてきたのでしょうか。

資料展示では、所作やそのタイミングを書き留めた型付、囃子各パートの譜である囃子付、簡略な舞台装置である作り物の寸法を記した作り物付等々の古資料のほか、絵図・写真・動画等、能の舞い方を伝えるために工夫された近代以降のメディアも紹介します。

シンポジウムでは、こうしたさまざまな資料について書き手や伝承の様態を概観するとともに、実際の稽古の場における指示の出し方・受け止め方、指示によりどう「上達」するかなど、師弟間のコミュニケーションの問題を考えます。また、ワークショップでは、型付や足取り図などの情報でどのくらい舞えるのか、師匠の指示で舞う場合との違いも試してみたいと思います。

第20回 能楽セミナー

シンポジウム 以心伝心・以身伝身 — 「ワザを伝えるワザ」とは何か? —

《日時》3月12日(月) 13:00～17:00

* 申込不要・入場無料

《会場》法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナードタワー 26階 スカイホール

1. 能の技芸伝承—趣旨説明をかねて— 山中玲子(法政大学能楽研究所所長)
2. 所作を書き留め伝える技術—型付の機能を考える— 深澤希望(法政大学大学院博士後期課程)
3. 技芸伝承におけることばと身体—素人稽古のコミュニケーションを分析する— 横山太郎(跡見学園女子大学准教授)
4. 客観的な動作分析からみたワザ伝達の要因(大島氏稽古のデータを踏まえて) 林容市(法政大学文学部心理学科講師)
5. 玄人の稽古・素人の稽古 大島輝久(シテ方喜多流能楽師) 聞き手 山中玲子
6. 全体討論

ワークショップ 型付だけで舞えますか

《日時》①2月28日(水) 19:00～19:45 ②3月12日(月) 11:30～12:15 * 申込不要・入場無料

《会場》法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナードタワー 26階 A会議室

《講師》高橋憲正(シテ方宝生流能楽師)

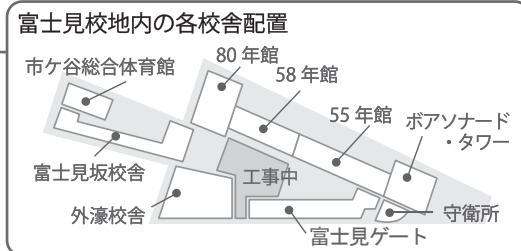
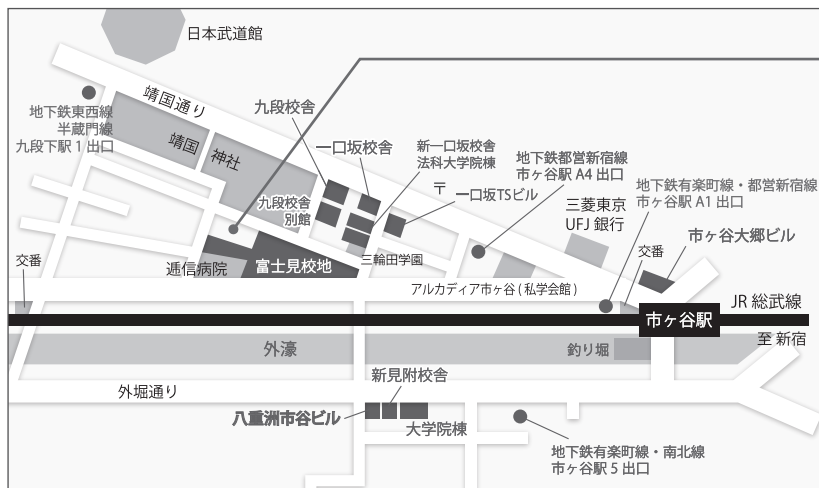
■能楽師紹介

大島輝久 1976年生まれ。広島県福山市出身。祖父久見、父政允、塩津哲生に師事。〈猩々乱〉〈道成寺〉等を抜く。

高橋憲正 1976年生まれ。石川県金沢市出身。父右任、19世家宝生英照に師事。〈石橋〉〈道成寺〉等を抜く。

■主な出品

『二曲三体人形図』『妙佐本仕舞付』『爰蓮江問日記』『童舞抄』『慶長十二年二見忠隆奥書戦国期囃子伝書』



※校地内工事のため、市ヶ谷駅を利用し、三輪学園側の門からお入りいただくと便利です。

■お問い合わせ先

法政大学能楽研究所

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL 03 (3264) 9815 FAX 03 (3264) 9607